

(平成 26 年 9 月 8 日 午後 1 時 55 分 再開)

●議長 (小林幸雄) 通告の 4 酒井聡議員

1. マイマイガ対策のその後について
 2. 観光 PR の効果について
- 議席番号 7 番・酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 議席番号 7 番・酒井聡です。今回の一般質問の通告は、マイマイガ対策のその後についてと、観光 PR の効果について、この 2 点であります。

観光 PR の効果についてということで、後にも触れますけれども、先ごろ 8 月 7 日の「ともろこしナイター」が神宮球場で行なわれました。大変、大観衆の前で信濃町をアピールしたイベントであったかと思えます。その折に、町長も大観衆の前で始球式、大役を務められました。終わった後「町長、さっきの球はストレートですか、カーブですか」と伺いましたが、「え、私は変化球は投げられない」という話でありました。答弁のほうも、直球勝負で是非お願いしたいと思えますのでお願いします。

まず、マイマイガ対策のその後について、検証を踏まえながら伺ってまいりたいと思えます。前回 6 月会議の一般質問におきまして、私は有害鳥獣駆除に対する取り組みについて、何点か伺いました。その通告を出した後に、このマイマイガの大発生というのが町内各地で確認をされましたので、農業被害というその大きなくくりの中で、急遽質問に付け加えさせていただいたわけでありました。大分急を要した部分がありましたので、手持ち資料ですとか、他の県、あるいは、市町村の取り組みですとか、そういった資料も若干不十分でありましたので、今回この大発生を改めて振り返りまして、対応策を確認しながら、来年以降大発生を繰り返さないために何ができるか、というようなことを伺ってまいりたいと思えます。

まず町長にお伺いします。この大発生、おそらく信濃町のいかなる世代の皆さんも、私はこんなの初めてだ、というような大発生であったというふうに記憶しております。町長、この大発生を振り返って、観光ですとか農業は、信濃町の主力産業でありますけれども、そういったところに与えた影響ですとか、言ってみれば感想をまず伺いながら、質問を進めたいと思えます。

●議長 (小林幸雄) 松木町長。

■町長 (松木重博) 酒井議員のマイマイガに関するご質問ですけれども、私の感想をお求めでございますが、農業についてはかなりの打撃があったのではないかと推測しております。米が額縁状に食われてしまったとか、あるいはブルーベリーが軒並み、花の段階で食べられてしまって、結実できなかったというような報告、私自身もブルーベリーを約 40 本ほど作っているんですけども、今年の収穫は孫に食わせる量が、がたと落ちてしまったという、そういう思いも持ってますし、針の木地区の皆さんは相当の打撃を受けたものというふうに感じております。

観光についてですけれども、町内の観光をやっている方、特に都会からお越しになった方は、観光のイメージがマイナスになった、という声を頂戴いたしました。

その後、戸隠で、長野市役所の戸隠支所で会議がございまして、戸隠へ行ったわけですが、その折に、戸隠の観光業の皆さんからマイマイガのことで、何か話を、苦情のことですけれども、話がきていますか、という事をお聞きしたところ、1 件も来てないと。戸隠の奥社の辺りなんかも大変、私が行った時はひどく食われていて、まさに冬枯れのような状況の中にあったわけですけれども、にあっても、戸隠の人達は「昔から居たんだもの」という、その一言で終わってしまったということでございます。このマイマイガ、隣の妙高市でも大発生し、また、飯綱町を含め長野県下でも、かなりのところで発生し、ただ、全然マイマイガが出ていない所もあるんですね。長野県の町村会の中の建設部会の会合を、過日黒姫高原で行ったんですけれど、その折に、そういうことが話題になりまして、お宅も、お宅も、と町村長で話をしているときに、「いや、うちの村じゃ、1 匹も、そんな話が出たっていうことは聞いてないよ」という方が 2 名おられました。ですから、よっぽどその町は、虫が生きてくのに、餌といますか、そういう物が無いのかなと、決して虫も付かないなんてそういうことはないんですよ。あの、虫が食べる餌がないのかな。帰りに、少しお持ち帰りくださいっていう冗談を言ったくらいで。また、県外でも愛知県の北部、岐阜県、静岡と、こういった所でも大発生しているという話を聞きました。非常に厄介な代物で、特に同僚議員の方からも、6 月会議の時に話があったことですが、首筋を食われたら、かなり腫れてしまったというご意見も頂戴しました。県の林務課の方にも、何とかしてもらえないでしょうかと言ったところ、長野市が、坂中峠の辺がひどいんですけれども、街場のほうに至ってはほとんど無いということで、あまりピンときていない状態で、我慢して 3 年から 4 年経てば、あの彼らの中にウィルスが発生して、ほぼ全滅状態にまで壊滅していくんだと、それがまた 10 年かけてまた増えてくるんだというような説明がありました。当時、空防、空中防除ですね、空防を、という声もありましたけれど、最近の各家庭は気密度の高いお宅ではあっても、でも、小さな子供さん達にその防除のあれがについては後々問題にもなろうと思えますし、各市町村長、皆、空防はできないしな、ということをおっしゃりまして、今も山の中に入ると無数の卵が、卵塊と言うんですか、産み付けられている状態で、町内の電柱も結構あちこちにありますが、どうにも手の打ちようが無いなど。ただその中で一つだけ参考意見として勉強させてもらったのは、LED ランプを付けているところは、ほとんど卵は産みつけられていないと。それ以外の所は非常に、身の毛もよだつほどの卵塊が付いているということでございますので、来年も LED 化を早く進めて、外灯など、そういう物に切り替えていくのが一番いいのかなという、それが感想でございます。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 直球勝負でとお願いしました。豪腕なようで、大分先の方まで持っていかれましてけれども、段階を踏みながら伺ってまいりたいというふうに思っておりますのでお願いします。

前回の質問ですね、有害鳥獣に対する農業被害ということで、その現状をまず把握したらいかがですかという質問もいたしました。その答弁の中で、昨年の被害額が 511 万円であると、また、農業品目ごとに取りまとめが行なわれておまして、例えば、ここからここまではクマであるとか、ここからここまではイノシシであるとか、そういうような細分化はされていないということのようでしたが、今回、マイマイが大発生期間、先ほど町長の答弁にもありました、水稻、とうもろこし、そういった、この町の言わば主力農産品、それが苗の状態であったということ、そして、ブルーベリーですね、かなり深刻な被害でありましたけれども、その葉が集中的に被害にあった、ということがあります。

町長が、近隣市町村、また他の都道府県の話もされておりましたが、岐阜県の話をちょっといたしますけれども、昨年、今年と 2 年続けて大発生が確認されております。特に飛騨地方、飛騨高山は観光地で有名ですけれども、特産の朴葉、朴の木の葉っぱですね、そこに影響を及ぼし、名産であります朴葉寿司、朴葉味噌など、今年の夏は確保は困難であり、地場産業の製造にも影響を与えていると、ましてや、あの飛騨高山は観光地でありますから、観光面にも影響を与えかねないと、地元の新聞でもそのように心配がされております。

そこでまず、現状の確認というところで、数字で取りまとめておられるかどうかも含めて伺いますけれども、町内におけるマイマイによる農業被害、その調査をしたのかどうか、それと、調査をしたのであれば、どのぐらいの被害額が想定されているのか、伺いたいと思います。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） その件につきましては、担当の産業観光課長のほうからお答えさせていただきます。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） それぞれ、稲とかブルーベリーがあるんですけど、議員さんが今仰ったブルーベリーについて調査しておりますので、先ほど長のほうからも、花の食害とかですね、それによって実がなかったということがございまして、このブルーベリーにつきましては農業共済の対象外ということになっておりますため、被害状況については、こちらの口頭の中で調べたので、全体の減収は 2 割減だと、それにつきましては大農家ですね、ブルーベリーを主に作っている農家に情報をいただきました。原因はマイマイが大きく影響しているというんですけども、防除等はしてもブルーベリーを作っているのが森林に近いためにですね、非常に飛来してくるため、対応が難しいということです。信濃町ではブルーベリーの栽培面積は今 7 ヘクタールあるわけですけども、その内、先ほども長が申したとおり、個々に本数が 40 本とか、そういう小規模な農家でございますので、減収になった原因等の把握等、非常に防除が難しいという

ことで量的にはちょっとまだ把握はしてないんですけど、ほとんど食べられなかった農家さんも多くいたということは把握しております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 概算で 2 割の減収、つまり例年の 8 割ほどの収穫という、そういう解釈でよろしいんですかね。確認いたします。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 加えさせていただきたいと思っておりますけれども、私、先ほど言い忘れていましたが、大きな農家の方ということで、何軒かございまして、例年の 2 割から 5 割の減少があった、ということでお願いします。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 2 割から 5 割というのは、農家の皆さんにするとかなりの痛手であると、いうことが言えるわけでありまして。町長のほうから、ウィルスが云々という話もありました。自然の摂理というのは、そうしたものかもしれませんが、人間の側から対応できることをまずやってみるということが何より肝心ではないかというふうに思います。

前回、急な質問でありましたけれども、その質問以降の対応策といたしまして、町の方では担当係と営農支援センターが、早々に対応策を取りまとめております。幼虫の駆除に関する情報が新聞に折り込まれたのに続きまして、8 月初めには、卵塊、卵の塊ですね、卵塊の処理策というのでも配布をされました。

これは先ほど話にも出ました、岐阜県高山市もそうなんですけれども、それと各市町村におきましては、昨年の大発生の際に、もう対応策がまとめて公開されております。今年 5 月にはマイマイガ防除マニュアルという、しっかりした物が、県の衛生環境部で、私の知る限り、この県の衛生環境部、あと長野市のほうも、衛生担当のほうでこの卵塊の処理というのは担当しているようでございます。

信濃町の場合は現状、農林畜産係と営農支援センターがこれに当たっているわけですが、岐阜県の衛生の担当部署がまとめたこのマニュアルというのがなかなか良く出来ていると思います。「何月から何月にはこういったことを注意してください」「何月から何月はこういった作業をしてください」と、そういったことが取りまとめられておりまして、この中で最も効果的な防除策・予防策として、9 月から冬にかけて 3 月まで、その卵塊対策、卵を取ってくださいと、これが最も効果的であるというふうになっております。先にも出ましたこの営農支援センターの通知、これもやっぱり卵塊の除去処理について、通達が出されておりますが、まずこれを出したことによる効果が、今のところ認められているかどうか、これをまず伺いたいと思います。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 情報を出した後で、町民の皆さんから除去する方法等、関心が寄せられまして、実際に各農家をはじめ住民の皆さんに取っていただくように、支援センター及び役場の農林畜産係のほうで、相談窓口をその都度開いて問い合わせに対応して、取っていただくように協力をいただいております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 新聞の折込みで、こう、二つ立て続けに通知を入れていただいたということは、まことに迅速な行動であるというふうに評価は出来るところであります。信濃町営農支援センター情報というふうに書かれますと、ほとんどの農家さんは、まずこれは「あ、今度は何だろう」と目を通すわけでありまして。卵塊の処理という分野になりますと、農家さんに限らず、卵を産み付けられたそれぞれの立場というのは様々あるかと思えます。先ほども申しました岐阜県では、衛生に関わる部署がやっております。長野市も同じように環境に関わるところがこれを担当しております。引き続き、この卵の処理というところまで、農林畜産の範囲で仕事を進めるという解釈でよろしいのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） このマイマイガの発生につきましては、農作物に非常に被害が出るという中で、当然住宅の所にも飛来するわけですがけれども、やはり重点的には農作物の保護とか防除の関係でございますので、当然環境係とも協力体制を取らなくてはならないんですけども、当面ですね、営農支援センターと、町の産業観光課の住民の方へ呼びかけて、当然、農作物は毎年作られますので、少しでも、数少ないような中で農業被害を守っていただくためにも、啓蒙活動を、産業観光課及び営農支援センターで行っていきたいと思います。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 担当部署は、いろいろあるかと思えます。横のつながりを持って当たっていただきたいというふうに思います。

黒姫駅・南側の照明灯の惨状というのは、ほとんどの町の皆さんが目にしたのかと思います。営農支援センターの通達にも、白黒ではありますけれども写真が掲載されておりまして、町長からも先ほど、観光客の皆さんのイメージという言葉もありましたけれども、駅はですね、この信濃町にとって玄関口であるという事でありまして。観光に対するマイナスイメージも、町長の言葉以上に私も懸念をしているところです。現状は、JR 資産に含まれている照明等、ものすごい、おびただしい数の卵、1 回処理というのは

終了したようですけれども、例えば、黒姫駅構内、あるいは古間駅でこういった作業がなされているかどうか。卵塊の除去の処理がなされているかどうかというのは、確認は、まず取れているでしょうか。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 当然、駅もですね、信濃町の玄関口だという中で、駅員総出で除去に当たっています。今、見るたびに掃除をしているというので、私も実際に見に行き構内も見せてもらいましたが、今のところ、構内とか近くの電柱には、卵塊の跡は見受けられませんでした。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 今、駅のほうは駅員さんのご協力の下でという話がありました。信濃町は、町営といいますか、公営の施設が多々ございます。公民館施設、あるいは総合体育館、そういった公共施設についての処理というのは、当然その行政側の分野になるかということ承知しております。一方、ふれあい広場をはじめとします、いわゆる指定管理下に置かれている施設。これは、管理業者に対して除去を依頼することになると思いますが、その解釈でよろしいのか。公民館ですとか総合体育館、もう既に卵を取られているというのであれば、それも合わせて伺いたいと思います。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） 公共施設の卵塊の除去ということで、総合体育館につきましては昨日、癒しの森コンサートもありましたので、その前に卵塊の除去を行なったところでもあります。また指定管理につきましても、委託を行なっている業者に、町の方から依頼をして、できるだけ卵塊の処理を行なうよう指示したところです。以上です。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 公の施設に関しては、そういった方法を取っていただいてスピーディにやっていただいたと解釈をいたします。

次に、規模の大小問わず、個人の住宅ですとか、あと民間の商店ですとか、そういった施設、宿泊施設も含めてですが、一般の住宅に関しては、個人の裁量で充分除去可能であろうとは考えます。しかしながら、例えば集合住宅、黒姫駅前にも団地がございます。あとは大規模な宿泊施設、商業施設、そういった場所での除去処理について、営農支援センターの通達どおりにいくのかどうか、というのも思うわけですが、町として何かしらの働きかけがあるか、見込みがあるのかを伺います。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 営農センターの情報提供によりますと、商業施設、宿泊施設の方にも、当然問い合わせ等もあつたりしていますので、協力をお願いして、大きな施設につきましても、充分このマニュアルでやっていただきたいということで、実施していただいたホテル等も聞いております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 先日ある用事であるホテルに行きました。壁という壁にびっちり、こう、付いていて、梯子に乗って取るというのも難義だろうなというような、そういったレベルの場所も見受けられます。

長野市の、これは 8 月 29 日付けの信毎の記事でありますけれども、長野市は、先ほど申し上げました環境政策課、衛生環境に関わる部署ですけれども、そこがマイマイガの対策に本格的に乗りだすと。9 月下旬には、もう市の施設を全職員で卵を取ってしまうと。そして、10 月には、市民等に自宅の壁などに生みつけられた卵塊を除去してもらうよう、各住民自治協議会や広報などを通じて依頼する。ここまでくると、もうキャンペーンの状態、そこまでしないと、そこまで住民の皆さんも一致団結していかないといけないのかな、という、そういったレベルの話であると、ある意味、この新聞の記事は、警告めいたふうにも取れるわけですけれども、信濃町といたしまして、8 月に出されたものをもう一回改めて、マニュアルのようなものを作って、各常会であるとか各個人のお宅であるとか、そういったところに、キャンペーンのような状態で卵塊の除去をお願いするかどうか、そういった計画があるのか伺います。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 今のご意見を承りまして、今後、関係各課と今のものでもいいのか検討いたしまして、必要であるとなれば、もっと啓蒙活動をしまして、防止に努めたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 来年の大発生を防ぐという、とても意味のあるキャンペーンになるうかと思えます。是非検討いただいて、良い計画を出していただければというふうに思っています。

先ほど町長から、LED という話がありました。用意していたものをすべて町長に先走ってやられてしまったので大分手間取るところもあるんですけども、ここ数年、各集落の防犯灯ですとか、集落間の防犯灯の LED 化が進んでおります。LED 街灯は、消費電力が削減できるという、そういう利点以上に、水銀灯、あるいは蛍光灯と比較しても、

先ほど町長からも話がございましたが、圧倒的に虫を寄せ付けない効果がある、ということが一部で言われております。虫を寄せ付ける波長が LED の光の中には含まれていないという、そういうことが理由と言われていますけれども、前回 6 月会議の補正におきまして、集落内の防犯灯の LED、これが大幅に、その補助枠、補助枠と言いますか補助対象枠の拡大が盛り込まれました。こういった事実をきっかけにですね、来年以降もそうですね、街灯、それと、民間の広告照明灯ですとか、灯りという灯り、これはできるだけ LED に切り替えてくれないか、と、積極的に町の方から発信して、政策として推し進めてはいかかかと思っておりますけれども、見解を伺います。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 決して先取りでお答えしたわけじゃなくて、保養地のほうの方から、保養地内では非常に、LED のためにマイマイガが少ないと。あそこは唐松林があればあるにも関わらず、その街灯の電柱というんですか、脚に柱に、その卵が生みつけられているのがほとんどないんだということを聞いて、それを基に、決して議員の先取りをしたわけではないので、御容赦いただきたいと思っております。

それで、ただ、こうも考えられるんですよ。絶対量があるものが、今までですと、今までの街灯の近くへ来て卵を産むんだと。ところが LED にすると、今、議員が仰るように、虫を近づける波長のものがないから逆に拡散して、多くの所で卵を産み付けているんじゃないかという、二通りの見方が出来るので、非常に悩ましいんですよ、これ。一箇所に固まってくれれば掃除は楽なんです。拡散されてしまうと、なかなかこれまた大変なことで、今、副町長にもお願いしてあるんですけども、五岳道路の唐松、東町の近くのところ、もの見事にあそこも枯れ木のようにになりましたですよ。で、問題はあそこ唐松の幹に、卵が相当あるとなると、これはもう山の中に相当あるという事に結びついてくるので、これをどうするんだと。特に今年になって大変お気の毒なんですけれども、屋根から落ちてお亡くなりになった方がお 2 人いらっしゃいます。御冥福をお祈りするところですけども、やはり、議員も仰られたように、私も先日その会議は一緒に行っていましたので、あの高い所へ、業者であれ何であれ、信濃町で転落して命を落とされたとか、あるいは下半身不随になったとかってというようなことになると、これもまた非常に困る問題にもなるわけです。だからどこまで駆除できるのか、非常に悩ましいところではありますけれども、さりとて腕をこまねいてるわけにはいかないので、できるところからやっていきたいと思っておりますし、山の中へ入ったらまたちょっと、特に保養地の辺りの唐松は、街灯とはかけ離れた所の唐松に卵が産み付けられてあるのかどうなのか、ちょっとまた見てみたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 作業の難しさということを、今、町長も大分強調されておられました。先ほど触れました、この岐阜県のマニュアルです。9 月から 3 月のところ、最も効

果的な卵塊対策の一つとして、あまり硬くない、先が平らなもので剥がす。二つ目として、高い所にある卵塊はガンノズルなどの高圧の水で洗い落とす方法もあると。いろいろ先進地は取り組んで、うまくいっているかどうかは別として、試しているというところもありますので、是非とも参考にさせていただいて、何か方策を編み出していただければというふうに思います。

今、町長の方から、LED に切り替えた場合、ことによると拡散するのではないかというような話もありました。ここでひとつ提案なんですけれども、LED に替えがたい照明器具というのも信濃町には存在するわけです。古間グラウンドのナイター照明であるとか、体育館の中の水銀灯であるとか、そういったところをトラップ、いわゆる罠ですね、そういうふうにして、むしろそこへおびき寄せて、一網打尽に退治してしまっただけかということ、ちょっと提案させていただきますけど、見解を伺います。

●議長（小林幸雄） 松木長町長。

■町長（松木重博） 大変有効的なアイデアだと思っております。私も県の方にもお願いしてあるのは、マイマイガのメスが出すフェロモンを作っていただいて、議員はお若いからそんなもの見たことないと言われるかもしれませんが、我々が子供の頃、この地域で使っていました蠅取り瓶、ああいったところにそのフェロモンを入れてマイマイガを一網打尽におびき寄せてしまいたい、そういうフェロモンの開発を県の林務の方にもお願いもしております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） いろいろと対応策を練りつつ、ことは来年の大発生を抑えるということですので、研究をお願いしたいと思います。冒頭、町長の話にもありました、ウィルスを待つというような、ちょっと気の長いことは言っていられないところもありますので、ぜひお願いを、要望を加えまして次の質問に移ります。

観光 PR の効果について伺ってまいります。先ほど申し上げました 8 月 7 日「とうもろこしナイター」と銘打ちまして、神宮球場でヤクルト・阪神戦での信濃町への誘客イベントが行なわれました。今回、詳細の説明は省略をいたしますけれども、このイベントに対する流れといたしまして、広報活動をし、イベントを実際に実施し、テレビ中継、関西ですけれどもテレビ中継が入ったり、翌日各所で報道されると、そういった一連の流れの中で、今まで町が打ってきたその誘客イベントとしては、かなり大規模なメディア戦略を展開したのでないかなというふうに承知しております。8 月に行なわれまして、「今が旬のとうもろこし」をアピールしたのが 8 月であります。それから 1 ヶ月ほど経っております。このイベントが、まず効果的な誘客に結び付いたかのどうかの評価を伺ってまいります。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 8月6日の折には、多くの町民の皆様をはじめ、議会の皆様にも大勢ご参加いただきました。本当にご苦労さまでした、と同時に、心より御礼を申し上げるところでございます。

あの時のテレビ放送は関西方面と伺っておりましたが、信濃町のほうでも、BS でしたか、あるいはCS でしたかで、見た方もおいででした。確か私達の左の放送局はフジテレビの皆さんとお聞きしました。そこで、これは私の推測ですけども、いろいろ人口からチャンネル数から割り返して行って、ざっと考えて全国で50～60万人以上の方の目に、信濃町の名前が約4時間にわたって触れたんではないかと思っております。長時間にわたっての放映ですので、当町を知らない方にも宣伝効果は充分あったであろうと思っております。その意味では、投資対効果の期待できるイベントと思っております。今後も町のPR活動に充分、取り組んでいく価値があるのではないかと、そんなようにも感じたところでした。

誘客への効果でございますけれども、あそこでどうもろこしの券を、抽選で当たった方にお渡しいたしました。そうしましたら翌日、お2人の方が道の駅へ来て、もう交換されていったということを伺いました。その後どうなっているか、ちょっと私も追跡調査はしてございませんけれども、翌日に、もうお2人の方がみえたということは、皆さんがお帰りになったすぐ後に、もう出発されて、もろこしのために信濃町に来ていただいたのかと感激したところでございます。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） かなりインパクトのあったイベントではなかったかなと思います。しかしながら、今回のイベントですけれども、バックグラウンドと言いますか背景がありまして、神宮球場の最寄駅でありますJR信濃町駅の開業120周年に合わせたという、そういった要素がかなり強いものであろうということでもあります。平たく言えば、私どもの今年の、一茶生誕250年と同じで、その1年を通して、その年のみのイベントという、そういった要素が強く感じられるわけですけれども、今回これが好評であったということであるとした場合にですね、今後このイベントの継続も含めてどういった方向に持っていくのか、展望を伺います。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 今の時代、いわゆるヒアリングの時代ではなくて、ビジュアルな時代と言われております。目に、視覚に訴える、そういう広告のほうが効果があると。特に、動く媒体ですね、目に訴えても文字だけでは、あるいは写真だけでは、そんなにインパクトはない。で、動くものを、目に、視覚に訴える、こういう広告というものを、これからは充分考慮して取り組んでいく必要があるかと思っております。しかしながら、媒体がテレビとなりますと、キー局の番組に、ドラマとか、いろいろなものがあるわけですが、そういうところに1時間ものに流した場合、800万から1000万は掛かるとい

う話も聞いたことがございます。ですから、出す物、あるいはどのくらい多くの人に興味を持って見ていただける番組か、そういったものも考えながら、お金を、大切な血税でございますので、大切に使いながら考えていきたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） なにぶん、費用対効果というところが一番でありますので、大きなコストを掛けたからといって、大きなバックがあるというのも、必ずしもそうとは限らない、非常に難しいところが観光 PR 広告の持つ難しさではないかなというふうに思います。

そんな中ですね、あの観光 PR キャラクター、町長からもビジュアル的に動くものというふうにありましたが、観光 PR キャラクター「一茶さん」が登場して、もう 10 か月ほど経過しております。一茶夏まつりにおきましてキャラクターの原案を決定いたしました。で、一茶忌でお披露目をして今日まで至るところで、活躍をしております。明治神宮、あ、ごめんなさい、神宮球場でもお客さまを出迎えておりました。暑さもあつて動いておりませんでしたけれども、一茶忌でのお披露目を経て今日に至るまで、実際にそのキャラクターとしてどういった活動をしてきたのか、まずはちょっと説明をいただきたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） この「一茶さん」につきましては、イベントと観光 PR ということで使用させていただきまして、昨年のお披露目以降、イベントでは、具体的にお話ししたいと思えますけど、2 月 8 日のレルヒスキー大会、5 月 5 日の一茶まつり、7 月 6 日のトライアスロン大会、7 月 26 日の野尻湖灯籠流し花火大会、8 月 7 日の、お話がありました神宮球場での「長野県信濃町とうもろこしナイター」、それとあと 8 月 30 日に夏まつりに登場していただきイベントで賑わいをしていただき、観光 PR でございますけれども、昨年の 11 月 23 日、ヤクルトのスワローズのファン感謝デーにも、神宮球場に登場いたしまして、3 月 21 日の長野トイーゴの、子供フェスタにも登場し、また 6 月 17 日には JR 信濃町駅でのキャンペーンの時に、駅に来られた方のお出迎えをしたりですね、5 月 8 日では、こちらへ、いろいろ小中学校とか癒しの森への視察の皆さんがお見えになるときに、特に、この 5 月 8 日の流山市議会の皆さんのときにも玄関に登場してお迎えをいただいたと。それと 7 月 14 日の山形県真室川町議会の視察と、8 月 2 日に、今度は JR 信濃町駅からの観光ツアーが今年初めて組まれまして、皆さんにおいでいただいたときに黒姫駅でお出迎えするなど、いろいろ活躍をしております。皆さんもご存じのとおり、この可愛らしいキャラクターも手伝ってということで、一茶さんが非常に人に好かれて、記念撮影をしていく方が多数いらっしゃるという中で、必然的に、信濃町の観光 PR につながっているということで、数々のイベント観光 PR に出演しております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 町内に、また町外にと、活躍をされているという解釈であります。流山市議会の皆様も、役場を訪れた時に出迎えをしていただいて大変喜んでいただいたことを、私も記憶しております。町をアピールするという、総合的に町をアピールするという、そういった職務、と言ったらキャラクターに対しては失礼かもしれませんが、そういったものがあるわけでありまして、以前、同僚議員の方の質問に私が関連として、このキャラクターについて質問をさせていただきました。町の子供たちには夢を与え、町外の方々には信濃町をアピールすること、そして、町内に住む大人たちにはこれによる経済効果をもたらされると、もう、言う事ないキャラクターになるであろうと、そういった位置づけを要望いたしました。今年に入りまして、キャラクターの著作権も、大分門戸が広がったと言いますか、所有と使用料について、ホームページで解説・説明をしております。町発行の PR 出版物に、大分「一茶さん」のイラスト、肖像というものを目にする機会は増えたかと思えます。6 月 1 日付で町ホームページに公開されておりますけれども、このイラスト、肖像の使用に関する要綱、これが取りまとめられて、7 月末に発表されております。申請のフォーマット共々、書いてあるんですけども、率直にその半年、私が質問したのが 12 月ですので、半年掛かったなというのは、ちょっと時間が掛かるかなと思えますし、これ担当は、多分取りまとめが一茶記念館宛ですので教育委員会になろうかと思えますけれども、この間の経緯を、まず伺いたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） デザインの使用要綱につきましては、キャラクターを町の PR のため広く活用してもらうためには、まずデザインの一切の権利を町が保有し、使用要綱の策定が必要でございます。4 月に入りまして、「一茶さん」のデザインの帽子の中に町章、例規集の中にあるんですけども、町の町章が含まれております。そこら辺の関係で、町が許諾して民間業者が商業用に使用する事に問題がないかどうか、まず弁護士の方に相談をした上で、デザインの原作者の方に承諾の依頼を行なったところです。その後、承諾が得られましたので、要綱を早速 6 月 1 日より施行とさせていただきました。使用料につきましては、多くの方々に活用いただくことで PR キャラクターの認知度も高くなりますので、無料としているところであります。また商業登録につきましては、現在特許庁へ出願中でございます。そんなことで多少遅れたものでございます。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） その手続きの間にはもう、キャラクターグッズの第 1 号として、ピンバッジ、非売品ですね、ピンバッジが作成されて、一茶まつりで全国俳句大会入賞者の子供達に配布されております。今のところ、それ以外にですね、民間から使用の許

諾ですとか、そういったことはこれからまた来るであろうと思いますが、それ以外にキャラクターグッズですとか、いろいろなところのパッケージに使うですとか、そういった計画があるのかどうか、町としてプランを持っているのかどうか、そこを伺います。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） キャラクターグッズにつきましては、ピンバッジの他に、先日の夏まつりの際に「一茶さん」の団扇を配布したところでもあります。また既に、町内業者さんからはキーホルダーや、デザインをあしらったクッキーの販売も進められておるところでございます。今現在、この他に行政主導の、非営利的なグッズ製品化の計画は今のところはございませんけれども、町の封筒にデザインを入れるとか、そのような形など、いろいろな面で活用を図って、信濃町の PR をしていきたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 商品パッケージとしてですね、こういったイラスト、肖像を使用したい側の目線に立った場合にですね、一茶記念館がその窓口であるという事も含めて、ようやく公開をされたわけですが、あくまでこれは申請をするという形でありまして、例えば、一般質問の折に私も発言しましたが、町内には例えば、食品を製造する会社もあります。お土産を扱う会社もあります。そういった企業の皆さんに、こちらから「どうですか、使ってみませんか」というアプローチをかけることもあろうかと思っておりますけれども、今のところそういった動きがあるのかなのか、また、使いたいという声があれば一番ではありますけれども、そういった使用に関するその問い合わせというのがどのくらいあるのか、確認をしたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） 今現在につきましては、先ほども申し上げましたとおり 1 社、町内の業者 1 社のみでの使用デザインということで、特に今現在、こういうふうに使いたいという要望は来ていないところでございます。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 町内まだ 1 社しかその問い合わせがないということでもあります。この要綱の内容を読み進めていきますと、町と、それに関連する機関などが営利目的以外に使用する場合は、申請不要にて使用できる事となっております。これは、町、そして教育委員会もそれに含まれるのでしょうか。営利目的以外に、例えば封筒やパンフレッ

ト、そういったところにイラストを使うというのはオールフリーであると解釈をいたします。

この際ですけれども、先ほど流山市議会の話も出しましたけれども、姉妹都市でもあります流山市役所並びに市役所に関連する公的機関、ここまで広げてみてもいかがかな、というふうに思いますけれども、どのような見解をお持ちですか。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） 流山市さんにつきましては先ほどもありましたように、流山市議会の表敬訪問の際、「一茶さん」でのお出迎えをしたところでもあります。また流山市の中学校の生徒が、信濃町に林間学校におみえになりまして、信濃小中学校の生徒との交流の際、千葉県の中学校との交流などもしたところでもあります。また、共に一茶に関わる市町としまして、流山市にもキャラクターの使用のPRを働きかけていきたいと思っております。以上です。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 次長、そういうことをお尋ねしたのではなく、この使用要綱の中に、信濃町の機関と、それに関する部署は、この「一茶さん」の肖像を自由に使えると。非営利的であれば、同じような扱いを流山市役所、向こうの教育委員会もそうですけれども、そういったところにもどんどん使っていただくために、門戸を広げてみてはどうかと、そういうことをお尋ねしたんですが、見解を伺います。

●議長（小林幸雄） 小林教育次長。

■教育次長（小林義之） 同じ一茶に関わる市町、姉妹都市提携を行っている市町でございますので、門戸を広げて進めていきたいというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） こういったキャラクターが結ぶ輪でありますので、是非とも広げていっていただきたいと考えます。

昨年、一茶生誕250周年ということで、そういった「一茶さん」のキャラクターの設定以外にですね、広報活動としてかなりメディアへの露出が多かった1年ではなかったかと振り返ります。25年度の予算の成果書にもあります、お金を払って、払ってという言い方も変ですね、お金を掛けて誘客宣伝をしたというところ、新聞7件、テレビ5件、ラジオ2件、雑誌20件とありました。かなり、例年に比べて広報メディアに対して、町の看板を掲げて信濃町をアピールした、そういった1年ではなかったかと思えます。しかしですね、昨年9月の同僚議員の一般質問の中で、大手新聞紙上における掲載広告

に関する質問というのがありました。町長と担当課長の間、また、課長と現場係長の間
に若干の意思の疎通があったかのような答弁があったかなと記憶していますが、額の大小
に関わらず、信濃町として看板を掲げるこういった広告について、その内容を町として、
担当から町長まで、内容を把握されるようになったのか、確認をいたします。

●議長（小林幸雄） 北村総務課長。

■総務課長（北村政光） はい、少額の広報等につきましては、各課長が判断して行な
っておりますので、どこかですべてを把握するということはまだしていません。以上で
す。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 当町は、それほど大きな役場機能ではございませんので、スポーク
スマン的な、あるいは広報的なそういった部署もありません。信濃町という看板をこう
いった大手メディアに掲載する時に、内容をそれぞれが把握しないというのもいかな
ものかなというふうに思うわけですが、改めて見解を伺います。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 当然、広報につきましても経費を使うわけですので、最小
限の経費で最大限の効果というのを、担当者は狙っております、それにつきましては、
大きな新聞等につきましては、上司の了解を得てですね、やはり日本中に発信するもの
ですので、それは充分連絡を取りながらやっていくということです。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番（酒井 聡） 今のところは町として、広告宣伝費として動いている部分でありま
す。その他にもですね、例えばニュースですとか、テレビの情報番組、旅番組ですとか、
そういったところが民間のお宅にロケに行くとか、そういったことも最近非常に増えて
いるように思います。以前はそういった事例一つひとつを、うちはまだオフトークに入
っているんですけども、「何時何分の番組で放送します」何ていうようなこともありま
したけれども、数が増えてくるとさすがにそれも捌ききれないだろう、最近そういう
ことも話も聞かなくなったというふうに思います。そういった、メディアにこれだけ露
出をするようになって、テレビを見て初めて信濃町を訪れましたというような観光客の
方といいますか、そういった声が聞かれているかどうか、メディア戦略は成功している
かどうか、そういった調査がなされているかどうか、まず、伺います。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） メディアの関係でございますけれども、テレビ局のほうから取材をお願いという部分も逆にありましたし、こちらから情報提供をしまして取材をしていただくと、そういう中で効果的な部分につきましては、ラジオ、テレビ等放映等されますと、次の日から始まって1週間くらいの間にお客様が増えたという例もありまして、春には某テレビ局のキャスターが現地で取材をしましたら、その翌日から観光客が増えまして、当初の2,300人くらいは増えたという話は効果として聞いております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7番（酒井 聡） 信濃町に限らず、こういった「テレビで見ましたよ」「ラジオで聞きましたよ」という誘客というのは、かなりインパクトがある。戸隠はその最たる例であろうと、ここ何年かの戸隠はそういうふうに思います。是非ともその効果的なメディア戦略、PRというものを展開していただきたいと思います。

しかしあくまでこれはですね、時間も無くなりましたのでまとめに入りますけれども、あくまでこれは、観光地の観光戦略としては、入口のさらに入口、お客さまをお呼びするというのは、入口のさらに入口と言える言い方でありまして、厳しい言い方をすれば、インパクトのあるCMですとか、イベントの話題性だけで終わってしまう、次がないというのではもう言語道断なわけでありまして。観光の本来のあり方というのは、実際に、日本全国あるいは海外から多くのお客さんに来ていただくということ、見ていただくということ、食べていただくということ、喜んでいただくということ、これが、すべてであると。そして喜んでいただいて、また来ていただく。これが、観光のあるべき姿であるというふうに思います。施設ですとか、交通機関、公共交通のこともこれからありますけれども、そういった充実をはじめとした、サービスの向上というのをまず図っていく。そしてそこにPR活動が効果的に行なわれる、それが、今、日本各地が目指す観光事業ではなかろうかというふうに思います。行政、そして事業者が一丸となって誘客に取り組む姿勢、こういったところに取り組む姿勢を、何より大事なことで考えますけれども、質問の最後にですね、今後の観光のあり方について、町長の意気込みを伺って質問終わりにしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 松木町長。

■町長（松木重博） 観光は、この町の一番の基幹産業の一つでございます。農業と並んで大事な産業ですので、この二つを一つに合わせる、いわゆる農業と観光のリンクによって、多くの誘客した方に、この町の素晴らしさ、美味しさ、楽しさそういったもの味わっていただきたく思っております。

●議長（小林幸雄） 酒井議員。

◆7 番 (酒井 聡) 以上終わります。

●議長 (小林幸雄) 関連質問のある方。11 番・湊議員

◆11 番 (湊 喜一) はい、11 番・湊です。関連質問を許可いただきましたので、1 点のみ質問させていただきます。

一茶のゆるキャラ、PR キャラクターですが、メディアに多く取り上げられているゆるキャラというキャラクターは、非常に動きがいい。ところが信濃町の「一茶さん」は手を引いてもらえないと歩けない、これはなぜかという、前が見えていない、斜め 45 度しか見えてない。中に入った職員の方のお話を聞くと、怖くて 1 歩が踏み出せないという状況であります。やはりね、動きのある PR キャラクターというのは激しく動いている、もしくは、しっかりこう、自分で主張できるという必要があると思われま。で、今のキャラクター、改造して、もう少し前が見えるような形にされるのかどうか、ちょっとお聞きしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 今のご指摘の点なんですけれども、専門家が信濃町にいらっしやいまして、以前キャラクターに入っていた方がいらっしやいますので、その後、指導で、ちょっと生まれ変わらしまして、跳ねる「一茶さん」になったり、非常に動きを考えた中で、今非常に生まれ変わっておりますので、今後見守っていただきたいと思ひます。大分、皆さんからご指摘をいただいた中で改造をして使用させていただくということで、今後、見守っていただきたいと思ひます。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆11 番 (湊 喜一) ということは、もう既に改造されて動き易くなったということ、そういう認識でいいのですか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 改造はしないで、中に入っている人が、意識的な動きというのがあるらしいんです。PR キャラクターの、先生がいらっしやいますので、これからどんどん、その方から教わって、動きを研究します。ただし一番の欠点は、1 人のときに、周りを見失うと、ということがありますので、十分その辺は改造していきたいというお願いを、教育委員会の方へしていきたいと思ひしております。

●議長 (小林幸雄) 湊議員。

◆11 番(湊 喜一) はい、そのキャラクターの中に入って非常に激しく動いていただいている方は、私もよく存じあげております。非常に親しい方が、前が見えない、という話もされておりました。是非とも、改造というか、穴を開ける場所が、とんでもないところに穴が開いているという部分がありますのでね。自分で入ってみて、動いてみれば分かります。是非それを、改造、いくらかでもお金を掛けてでも改造すべきだと思って、この関連質問をさせていただきました。是非とも取り掛かっていただいて、ユニークな動きをしっかりと出来るキャラクターで、万人に愛されるキャラクターに持って行っていただきたいと思いますので、再度見解をお聞きします。

●議長(小林幸雄) 静谷教育長。

■教育長(静谷一男) 今日初めて聞いたご意見なんですが、中で動くメンバーによって動きが直るのであれば最高なのですが、それにもう一工夫して欲しいということで、検討させていただきます。

●議長(小林幸雄) 湊議員。

◆11 番(湊 喜一) 是非とも検討していただいて、ユニークなキャラクター、更に人気の出るキャラクターにしていただきたいと思います。これにて、関連質問を終わりにします。

●議長(小林幸雄) 以上で酒井聡議員の一般質問を終わります。
この際、3 時 15 分まで暫時休憩といたします。

(15 : 00)